

◆特集 ロスジェネ世代の今は！

女性・シングルで生きていける社会

兵庫県 おかざき彩子

〔スウェーデンの友人からの手紙より〕

私は、配偶者の仕事の都合で、2009年からスウェーデンで暮らしています。

この13年間、スウェーデンで暮らし、ここで教育を受け、子育てをし、周りのスウェーデンの友人たちが就職活動をしたり、大学教育を受け直したりするのを間近で見ながら、人間の一生（特に女性の一生）というのは、こうも生まれ落ちた国の政治に左右されるものかと、まざまざと感じてきました。スウェーデンではまさに、「女・シングル」で問題なく生きていける社会です。

リーマンショックでも…

私の友人のスウェーデン女性Aさんは、ちょうどリーマンショックが起こった直後に大学を卒業し、100個以上の会社に履歴書を送るも、全敗。当時、2010

年から12年くらいはスウェーデンでも景気が一時的に落ち込み、どの会社も採用を控えたので、就職氷河期世代が生まれたのではないかと私は密かに感じていました。ところが、当時就職ができなかった私の周りの友人たちは、1〜2年ほど就活をしながらバイトをした後、大学・大学院に舞い戻りました。Aさんは図書館司書になるために大学院へ。日本では図書館司書というと、時給800円かそこらで女性がこきつかわれる印象があるので、当時私は彼女に「本当にその仕事でいいの？ 大丈夫？ その仕事で食べていける？」と余計な質問をしたものです。

彼女はポカンとして「大丈夫。普通にお給料ももらえるよ」と。

2年の修士課程を終え（もちろん、学費は無料。学生期間中の生活費も補助／学生ローンが出ます）、彼女は無事に図書館司書（図書館司書の中でもアーキビストという公文書などを保存する仕事）になり、初任給で月

給30万円ほどを稼ぎ、ローンを組んで自分でアパートを購入し、全くなんの問題もなく経済的自立を果たしました。



スウェーデンの看護師（公務員の正職員）

全員正社員で就労

当時就活に苦戦した他の友人たちも、今では全員、正社員の様な職に就いています。

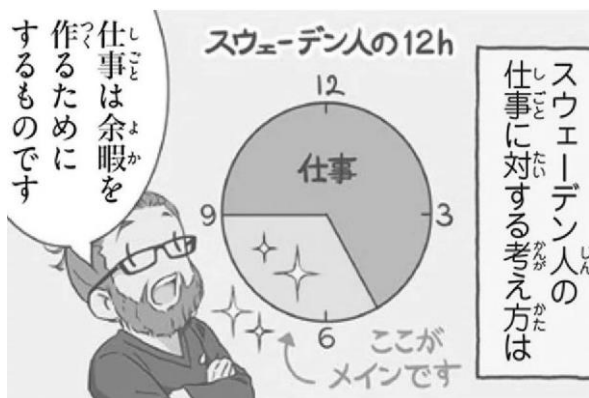
スウェーデンでは、女性が従事しがちな、保育士、図書館司書、看護師などの仕事が公務員の正職員で、保育士での初任給は30万円以上貰えます。こうすることで、女性の経済的自立が果たされ、彼女たちが納税し、ローンを組んで住宅や車などを購入し、経済に活力を与えているのを感じます。また、彼女たちが正当な対価を稼いでいることで、堂々と生きている姿も印象的です。

日本だと、「なんの仕事してんのん?」「銀行。派遣やけど」「保育士。めっちゃお給料低いで」「転職して保険会社で正社員になったんやけど、新卒の時に銀行で派遣社員してた時より手取り低いねん」などと、女友たちから自虐の言葉が飛び出すのがつきものなのですが、こちらでは皆、堂々と「保育士」「図書館司書」「ソーシヤルワーカー」と答えてくれます。

日本の女性たちは、経済的に搾取されたのみならず、本来なら得られたはずの、仕事人としての自信も奪われたのを感じます。

そして、それを自己責任だと信じ込んでしまっている。

◆特集 ロスジェネ世代の今は！



それが政治のせいだとは、気づいていない。

特別優秀ではない人も

私の周りのスウェーデン人女性たちは、決して人一倍努力した訳でも、人一倍優れているわけでもありません。極々普通の能力の人間が、極々普通に教育を受け、

就活をし、仕事が見つかるまで1〜2年渋々バイトをし、それでも仕事が見つからないようなら無料で再教育を受けて求人が多い分野に軌道修正し、最終的に仕事を見つけた、本当にそれだけです。正直なところ、日本人に比べると勤労意欲が低かったり、ダブルチェ

ックを怠って重大なミスを繰り返したり、時間にルーズだったりする人も本当に多い！でも、みんなちゃんと自立して生きていきます。

そしてそれは、スウェーデンの政治家たちが、彼女たちの権利を守るために仕事をしているからだと感じました。

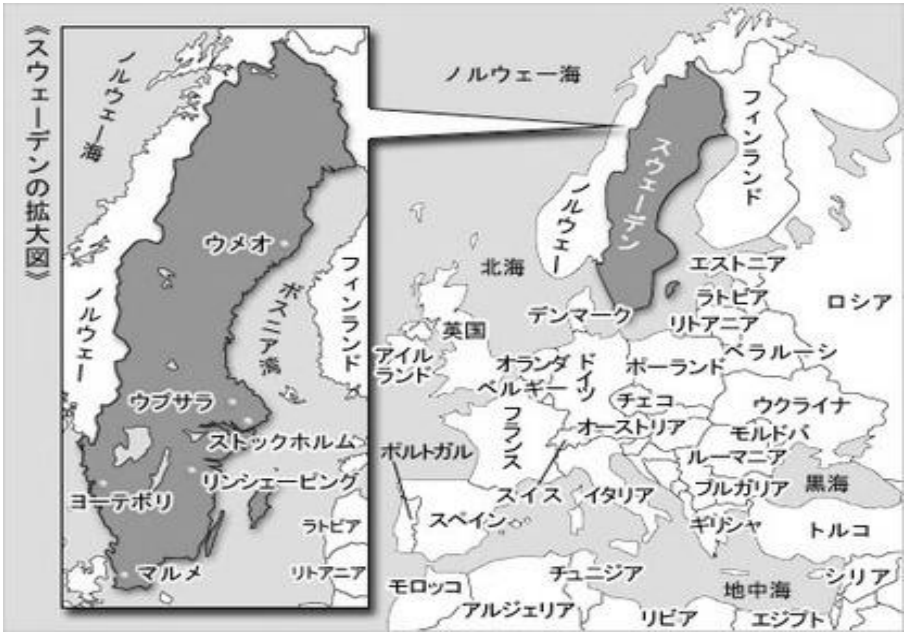
普通に仕事を得られる

なんの自己否定も、劣等感もなく、それなりにやることをやっていけば、普通に良い仕事を得られた、周りのスウェーデン人女性たちの人生が、私は本当に羨ましい。

女性だからといって様々な事柄に差をつけられず、「女の子はそこまで勉強しなくても良いよ」などと言われることもなく育ち、普通に仕事人になれた彼女たちが羨ましい。

医者のお友人も何人もいますが、彼女たちは決してお金もちのご両親を持っている訳でも、抜群に頭が良いスーパーウーマンだった訳でもありません。

団地で生まれ育った子でも、人口数百人の北極圏の田舎町で育った子でも、そこそこの成績が良くて普通に頑



張れば、医者にだって研究者にだって弁護士にだってなれる、それがスウェーデン社会です。

この国に生まれていれば!! と恨めしい気持で、何度、眠れぬ夜を過ごしたか!!

(以上、中学の同級生の手紙より)

■スウェーデンとは

スウェーデンは、北欧のスカンディナヴィア半島に位置する立憲君主制国家である。

人口は1035万人。民主主義の成熟度が高く評価されており、民主主義指数で世界3位、情報流通の自由度世界1位、世界報道自由度世界3位である。

スウェーデンの労働政策は「積極的労働市場政策」といわれ、国民に能力向上と労働を求める「労働と能力の理念」を重要な原則としている。失業手当を支給するよりも、積極的就職の斡旋や教育訓練等による就職機会の拡大を図ることが、優先的かつ重要であると考えられている。手紙にあるように教育訓練中も一定の経済的保障もされている。

(おかげさき さこい)